

石小っ子の教育

6年生保護者さま
令和7年9月30日
河内長野市立石仏小学校

全国学力・学習状況調査、すくすくテストからみた 石小っ子

4月に行われた全国学力・学習状況調査とすくすくテストの結果について学校全体の概要をまとめました。結果をもとに、本校の児童の傾向を考察しました。この結果をもとにして、本校の子どもたちの実態を把握し、今後の効果的な指導のあり方につなげて、取り組んでいきたいと考えております。

I. 学力調査の概要

【国語】

◇概要

全体の平均正答率は、大阪府、全国の平均をわずかに下回る結果となった。特に思考力、判断力、表現力等を見る問いでは、読むことや書くことについては平均を上回るものもあるが、話すこと・聞くことに関する問いはすべて下回る結果となり、課題が明確になった。

◎特に成果が見られた問題例

- ・情報の扱い方に関する事項【1二】や、目的に応じて必要な情報を見つけることができるかどうかを見る問い【3三(1)(2)】はよくできており、日常の、書き表し方の工夫につながられている。
- ・我が国の言語文化に関する事項についての結果から、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づけていることがわかった。【3一】

▲特に課題が見られた問題例

- ・漢字を文の中で正しく使う問いは府・全国平均を大きく下回り、既習の漢字の定着に課題が見られた。【2四ア、イ】
- ・話すこと・聞くことに関しては多くの課題がある。やり取りの中で、その会話の目的や相手の意図を理解すること、それを受けて自分の考えをまとめることも難しいことがわかった。

【算数】

◇概要

全体の平均正答率は、大阪府、全国の平均を上回る結果となった。また、各領域の正答率(%)を見てみると「数と計算」「図形」「測定」の3つの領域では、大阪府、全国の正答率よりも上回っている。しかし「変化と関係」「データの活用」の2つの領域については、大阪府、

全国の正答率よりも下回る結果となった。特に「変化と関係」の領域の問題においては、無回答率も高い。

◎特に成果が見られた問題例

- ・棒グラフから関係性を読み取る問題や異分母の分数のたし算等「式と計算」の領域の問題については、80%を超える高い正答率となっている。【1(1)・2(2)】
- ・礎的な知識を問う設問においては、9問中8問が大阪府・全国の正答率を上回っている。
- ・直線上に示された分数を書く問題は、全国や大阪府のポイントが低いにもかかわらず、50%以上の正答率があった。【3(3)】
- ・「知識・技能」を問う問題の平均正答率は71.7%であり、異分母分数の計算は87.9%の高い正答率を示すなど、基本的な計算スキルは習得できている。【3(4)】

▲特に課題が見られた問題例

- ・評価の観点別で見ると、「知識・技能」の71.7%に対し、「思考・判断・表現」は46.8%へと大きく低下した。この課題を象徴するのが「記述式」問題の低さで、平均正答率は38.6%に留まる。
- 具体的には、分数の加法について共通する単位分数の考え方を記述させる問題【3(2)】の正答率は39.4%、目的に応じたグラフを選び、その理由を記述する問題【1(2)】に至っては24.2%、と、思考のプロセスを言語化することに極めて大きな課題があることが示された。知識をどう活用し、自らの考えを構築していくかという「思考の体力」を育む必要がある。

【理科】

◇概要

全体の平均正答率は、大阪府、全国平均をやや上回る結果となった。特に記述式の問題や「エネルギー」に関する内容で高い成果が見られ、理科への関心や理解の深まりがうかがえる。

◎特に成果が見られた問題例

- ・「エネルギー」に関する問題で、全国平均を上回る成果が見られた。
- ・電気の回路の作り方について実験の方法を発想し、表現をすることができるかどうかの問題では、正答率が大阪府、全国平均より高く、実際の授業での実験活動や視覚的な理解が定着していることがうかがえる。【2(2)(3)(4)】

▲特に課題が見られた問題例

- ・生命（人や植物のしくみ）」に関する問題で大阪府、全国平均を下回っており、知識の定着や理解にやや課題が見られた。観察や実験を通じた体験的な学習を大切にしながら、基本的な用語や内容の理解を深めていけるよう、指導を工夫していきたい。【3(2)(3)(4)】

2. すくすくテストの概要

【わくわく問題(教科横断的問題)】

◇概要

- ・大阪府の平均正答率より、やや上回っていた。
- ・短い文章や会話文の内容を読み取り、解答することができている。

◎特に成果が見られた問題例

- ・「始末の心」という最近では聞きなれない言葉の意味を問う問題では、短い文章や会話文の内容を正しく読み取ることができている。【1(1)】
- ・社会的場面で活用されているナッジを身の回りで適用する方法を考える問題では、問題の条件に沿って自分の考えを書くことができている。【3(3)】

▲特に課題が見られた問題例

- ・図や文章を読み取って、表に整理する問題の正答率が低かった。【1(2)】
- ・防災クイズの流れを考える問題では、物事を順序立てて考えることについて課題があった。【2(2)】

【児童アンケート】

◎特に成果が見られた質問

- ・「1. 自分にはよいところがあると思う〈本校:92.7・府:88.3〉」「2. 将来の夢や目標を持っている〈本校:88.2・府:86.2〉」「28. 先生はあなたのよいところを認めてくれる〈本校:94.1・府:92.4〉」「31. あなたには、困ったときに相談できる友だちがいる〈本校:92.6・府:91.2〉」などの質問では、大阪府より肯定的な回答がやや上回っている。
以上の回答結果より、自己肯定感が高く、周りの友だちとともに前向きに学習に取り組むことができているのがよくわかる。学校としても、教職員全体で子どもたち一人ひとりの良さががんばりを見つけ褒め、子どもたちに伝えていきたい。
- ・「52. 授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分にあった問題やドリル等に取り組むことはどれくらいありますか〈本校:67.7・府:59.4〉」「53. 授業で、コンピュータやタブレットを使って、必要な情報を調べることはどれくらいありますか〈本校:89.7・府:66.5〉」「54. 授業でタブレットを使って、自分の考えを書き込んだり、友だちと意見交流したりすることはどれくらいありますか〈本校:58.9・府:51〉」では、ほぼ毎日や週1回などの合計は大阪府をはるかに上回っている。
以上の結果より、タブレットを活用して行う学習の定着がうかがえる。使用頻度だけでなく、さらに有効な活用方法についても深めていきたい。

▲特に課題が見られた質問

- ・「41. その時間に学んだことについて、振り返りをしている〈本校:60.3・府:75.3〉」「51. 授業で学んだことを、ふだんの生活にいかすようにしている〈本校:66.1・府:77.1〉」「59. 課題や問題に取り組んでいる途中で、うまくいかなかったときは、やり方を変えている〈本校:57.3・府:71.4〉」「60. 読んでいてわからなくなったときは、もう一度読み直してみる〈本校:79.5・府:85.1〉」などの質問では、

大阪府の平均を下回っている。

以上のような課題に対して、本校では、子どもたちが自身の学んだことを客観的に把握し、次の学びや生活に活かせるように「振り返り」を取り入れた授業づくりを進めている。また、小さな成功体験を積み重ねたり、失敗を学びの機会として捉えたりする機会を増やし、粘り強く取り組む力の育成にも取り組んでいきたい。

調査結果を受けて

(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと

- ・対話を重ねて考えを深めることや振り返りを大切にした授業づくりを進めていきます。
- ・確実な知識習得のため、日々の授業で復習にも重点を置き取り組んでいきます。
- ・多くの情報量进行处理することに課題があるため、文章問題への取り組みに力を入れます。
- ・具体物を触ったり操作したりして課題解決に向かっていくことや自分の考えを筋道立てて説明したり、記述したりすることにも取り組んでいきます。
- ・漢字やことわざ、故事成語の習得を図るとともに、学んだことを他教科の学習でも活かせるように、伝え合う活動にも積極的に取り組んでいきます。

(2) 児童のみなさんに取り組んでほしいこと

- ・漢字の練習に丁寧に取り組みましょう。今までに習った漢字も自主的にくり返し練習をして、確実に身につけましょう。
- ・難しい問題に取り組んだり、不思議だなと思うようなことがあったりするときには、そのままにしないで、質問したり、自分で調べて、最後まであきらめず取り組みましょう。
- ・自分の考えや感想など、文章を書いた後は、読み直しをしましょう。読む人にわかりやすい文章になっているか、言葉が正しく使えているかを見直しましょう。
- ・学習したことが身の回りのどのような場面で活用されているのかを考えるようにしましょう。

(3) 保護者のみなさまに協力していただきたいこと

- ・家庭学習においては、宿題のサポートをお願いします。
- ・小さな言動も、たくさんほめてあげてください。お家の方からほめられたり認めてもらえたりすることは、子どもたちの自尊感情や、「やってみよう!」という前向きな言動のエネルギーとなります。
- ・ご家庭で本に触れる機会を増やしていただけるとありがたいです。